



Asahi Family Digital

関西エリアの“今”を豊富なコンテンツで発信！！
「ひと」と「まち」が響きあうWEBサイト

株式会社 アサヒ・ファミリー・ニュース社については [コチラ](#)
「朝日ファミリー」広告掲載 / イベント企画運営 / 編集 / 制作業務 / 採用案内 / 会社概要

「このホッとする本を、友人へのプレゼントにしました」
田舎医者がほっこり描く患者との日々、続々と反響が寄せられています。

第4刷 累計1万部刊行

▶ 届いた感想及び投稿はこちらから

診療所の窓辺から 小笠原 望・著
～いのちを抱きしめる、四万十川のほとりにて～
発行所：株式会社ナカニシヤ出版
企画・編集：株式会社アサヒ・ファミリー・ニュース社

ホーム	ニュース	ライフ&アート	地域	教育	レジャー	グルメ	エンタメ	コラム
-----	------	---------	----	----	------	-----	------	-----

半世紀に及んだ奈良・川上村の大滝ダム建設をめぐる人々の声を今夏、本にまとめた浅野詠子さん

2017-09-11

20年余りに及ぶ奈良新聞記者を経て2008年にフリージャーナリストとなった浅野詠子さん（奈良市在住）が今夏、5冊目となる著書を出版した。書名は「ダムと民の五十年抗争～紀ノ川源流村取材記」。奈良県吉野郡川上村に2013年に完成した大滝ダムをめぐる、住民らに取材した記録をまとめた本だ。



「ダム建設や土木工事などの専門知識がなかったの、資料を読み解くのに苦労しました。住民に協力して手弁当で土壌を調査・研究した専門家がいらしたことも取材する中で初めて知りました」と浅野詠子さん

大滝ダムは1959年の伊勢湾台風による紀ノ川の大水害を機に、翌60年から構想され、62年に計画が正式に発表された。高度経済成長期以降の日本で、数多く計画されたダムの中でも「東の八ツ場（やんば）、西の大滝」と並び称されるほど住民の反対も強く、完成まで半世紀に及ぶ歳月を要した巨大公共事業だった。当初230億円とされた総事業費は約16倍の3,640億円に上ったという。

紀ノ川は紀伊山地の大台ヶ原を水源とし、奈良県から和歌山県を流れ、紀伊水道にそそぐ一級河川で、奈良県内では吉野川と呼ばれている。

浅野さんは駆け出しの記者だった86年から5年間、吉野郡東部の9カ町村を担当した。大滝ダムができる川上村もその中にあった。吉野川沿いにくねくね走る国道169号を、最初の2年間はオフロードバイクで、その後は「雨の多さに観念して」車で駆け回りながら取材に追われる日々だったという。

「その当時はまだ、ダムなんかどこに建つの？といった感じで、のどかな山村でした」

水没する国道が山上に付け替えられ、壁のようなダムの躯体が姿を現したのは2001年ごろ。担当からは外れていたが、試験貯水中の2003年に川上村白屋地区に亀裂が発見され、大きなニュースに

ITをもっとわかりやすく

[紙面を読む](#)

[会社概要](#) [お問合せ](#)

診療所の窓辺から 小笠原 望・著
～いのちを抱きしめる、四万十川のほとりにて～
▶ 届いた感想及び投稿はこちらから

イベント情報

「朝日建築」
関連イベントの記録

教育を考える集い **動画配信中!**
文化としての学校
～大学入試改革で「名門校」がますます有利になる理由～

エシカルスタイル eco. その先を考えよう!
ethical style

なったことを覚えていた。古くからこの地に住んできた37世帯が移転を余儀なくされることになった。

2014年秋に川上村を訪れた浅野さんは、「官製の記録には出てこない人々の声を拾って、山村史の空白を埋めたい」と考えるようになったという。

それから2年半の間に、村民、元村民、研究者いろいろな立場の人に会って話を聞いた。関係者の中には他界している人も多かった。せっかく会えても口をつぐんでしまう人もいた。それでも浅野さんは「100人に会えば、本は書ける」と、できる限りの人に会いに行った。正確に数えたことはないが、「80人ぐらいにはなったでしょう」。

昨年2月に会った横谷好則さんは、白屋地区の亀裂によって自宅を村内に移転した村民の一人だ。当時44歳で村役場に勤めていた彼が、当時のことを朝日新聞「声」欄に投書し「地面のひびが心の亀裂招く」と掲載されると紙面を示して教えられた。

「公務員の立場で、実名で発言された勇氣に感動しました。今も村内で暮らす横谷さんは、これまでの歩みを書き残して、子どもたちに伝えたいとおっしゃっていました」

聞き書きだけではなく、膨れ上がった事業費の中身を洗い出したいと、行政に入札や随意契約の情報開示を請求したが、それらの書類の保存期間は10年ほどがほとんどで、すでに廃棄されていた。

著書の中には元村民の「ダムさえなければ、村民同士のいがみあいなんかなかった。(略) いやなことは胸にしまって静かに暮らしてんのよ。何も言いたくないんよ。ところであんた、こんなこと本に書いてどうすんの。やめてほしい」という言葉も紹介されているが、粘り強い取材を進めていった浅野さんは、取材を進める中で出会った、川上村にあるもう一つのダムの記録「大迫ダム誌」(1983年)に寄せられた、住川逸郎元村長(故人)の思いを引き継いでいるかのようだ。

公選後の1957年から68年まで村長を務めた住川氏は「当時の川上村の人びとが、いかに大迫ダムと取組んだか、もっと中身の豊かな人間を描いた記録を後世に残してほしい」と書き残していた。

人々の交錯する思いを行きつ戻りつしながら、それでも丁寧に拾い上げた労作を出版後、関東のある書店が地方自治の棚に並べていてくれると知った。「通常、このようなテーマの本は、河川工学や環境などの棚に置かれることが多いのですが、内容を知ったうえで並べてくださったのだと、うれしくなりました」

四六判上製241ページ。風媒社刊。定価1,944円。

※上記の情報は掲載時点のものです。料金・電話番号などは変更になっている場合もあります。ご了承願います。

カテゴリ: ニュース

シェア ツイート 追加 送る 共有

あなたにおすすめの記事



日本資本主義の黎明期の労働実態を描いた歴史的名著『女工哀史』と猪名川の意外な関係とは!?



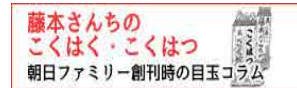
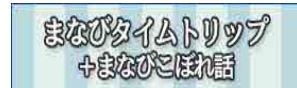
現地のレシピで提供するベトナム料理が食べ放題! ハイアットリージェンシー 大阪でワールドブッフェ31日(木)まで



星空の下、プールサイドで乾杯しよう! 時間無制限で食べ放題&飲み放題の千里阪急ホテル「ピアガーデン」9月30日(土)まで



おすすめ



フェイスブック



人気の記事ランキング

- よりどりみどり京都府下の地酒が飲み放題
【KYOTO SAKE GARDEN】京都市中京区
- 【うちのブカツ自慢】Vol.9 箕面自由学園高等学校 家庭科部
- 新潟県の地酒と郷土料理を阪神西宮駅で
【新潟うまいもんじょんのび】兵庫県西宮市
- 【新大阪駅】なぜ阪急? JR 2社に地下鉄も参戦して進化するターミナル 将来は地下にも注目!?
- 西宮能楽堂 鳴尾に12月開館 ゆかりの「高砂」で1月に披露公演